

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292500145		
法人名	株式会社 MOUNT FLOW		
事業所名	クララ清流式番館		
所在地	千葉県流山市古間木313-6		
自己評価作成日	2021年11月29日	評価結果市町村受理日	2021年3月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ACOBA
所在地	千葉県我孫子市本町3-4-17
訪問調査日	2021年12月22日(文書評価)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

超長期で在籍して下さっている入居者様が増え、平均年齢、平均介護度が上がってきている。そんな中、個々に合った質の高いケアを行えるよう、全スタッフの技量の底上げと共に、日々柔軟な対応を心掛けている。毎日、管理者と現場スタッフで意見交換をし、ベストな対応を考え、実践するようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームはこれまで、ノロウイルスやインフルエンザなど各種の感染症に対し、新しい消毒システムの導入や職員教育など、感染者を出さないという強い思いで予防に取り組んできた実績がある。この一年はコロナウイルス感染症の猛威にさらされてきたが、ホーム内はもとより、外部から通勤する職員も含め徹底した衛生管理で一人の陽性者も出さずに来れた点は立派である。外部交流ができない分、ホーム内教育による人材育成に注力し、高齢化した入居者と正面から向き合い、チーム介護などで、事故や身体拘束のない、人としての尊厳を重視した介護(ユマニチュード)に取り組んでいる。アンケートでは、今までのように面会できない点を除き、日頃の安全、安心を目指したケアに多くの感謝の言葉が寄せられている。ビデオ通信による面会は、入居者への心理学的な影響等の検討も含めて今後の課題とされたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様が住み馴れている地域で安心して生活を続けられるよう、またひとり一人に向き合い尊重される権利に基づき、他利用者様との関わりにおいても安心して過ごせるよう努めている。	理念は玄関や事務室など、家族や職員の目につきやすいところに掲げ、日常、ケアに向かう心のよりどころとなっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩中など地域の方と会ったら、元気に挨拶したり、声掛けしたりしています。	コロナで地域との会合などの付き合いはなくなったが、日常、ホームの近所との挨拶はできている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	代表は地域の方々と交流を持ち親身に相談やアドバイスを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は感染症対策ゆえ書面での報告となっているが、ご家族様からの意見や感想など電話でお聞きした時には柔軟にサービス向上に活かせるよう努めている。	運営推進会議はホーム関係者のみで年6回開催、議事録を今までの参加者へ送付し確認して頂いている。スタッフミーティングの記録は見られるようになっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	電話や窓口でのやりとりの際に、日々の利用者様のご様子や実情、サービス方針を伝えている。	市の介護支援課とは定期的に訪問し、ホームの状況を報告している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に対するミーティングを何度も行い理解し実践しています。注意しながら正しくケアしています。	ホームの身体拘束適正化委員会を開催している。拘束廃止の為の研修会を開催し、「ユマニチュード」の考え方の理解などに努めている。	事故やヒヤリ・ハットの原因を「ユマニチュード」の考え方に照らし合わせて検討し、目標としている「安心・安全」のレベルを一層高められるよう期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	そのように努めています。常に気持ちに余裕を持って接しています。		

8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ケアマネジャーと管理者で行っている。職員に対しては勉強会を行いたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結前には十分な説明を行っている。改定の際にも運営推進会議や文書を通して十分な説明を行い同意を得るよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	会議開催の際には、ご家族様にも必ず意見をいただくよう努めている。ご連絡の際にもご意見頂くことがあれば、それらを運営に活かせるよう職員も努めている。	家族の面会を制限している為に、電話などによる家族の要望や意見は職員会議などで取り上げて検討し、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場の職員の意見や提案を言いやすい状態を作り対応している。疑問はそのままにせず、代表や管理者に必ず相談し、問題を共有するようにしている。	代表者や管理者は職員との良きコミュニケーションづくりに取り組み、ヒヤリ・ハットなど言いにくいこともいえるホーム内雰囲気としている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力をしっかりと見、給与に反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	特に内部研修や現場での指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今後行いたい。		

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階から常に声掛けし、顔色・元気の有無など特に気をかけ声かけするように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者はご家族様との話し合いに時間をかけ、安心してサービスを受けられるよう契約前から信頼を積み重ねている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とも初期対応からしっかりとお話をし、その時に合ったケアを提供できるよう見極め、方向性を考えている。他のサービスが適切であればその提案も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	サポートはもちろんですが、お手伝い等して頂いたり、レクなどは同じ目線で楽しめるようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍でガラス越しの面会の機会を提供している。ご本人のご様子もお伝えしたり、電話でご本人とお話、文通をして頂き、絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のため、電話でご本人とお話、文通をして頂いている。	コロナ禍で家族、馴染みの方とは会えない状況が続いていたが、ホームでは第2の我が家として職員も入居者同士、訪問美容師も馴染みの関係となり、明るく、穏やかに暮らしている。家族とはいつでも電話で声が聞けるようにし、入居者は手紙を書き近況を知らせている。	緊急事態宣言解除後はガラス越しの面会が可能となったが、家族からは今後の手段としてビデオ通話ができると良いと希望が出ている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクの時間は特に気にかけています。全員が参加できるもの、出来ない時は、どなたかが助けてあげられるようにしたりと孤立しないように努めている。		

22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	無理強いせず、各自の意向に近づけながら、他の方と沢山関わられるようサポートしています。	本人の気持ちや希望を尊重し、傍に寄り添う職員はいつもと違う、を見逃さない支援に取り組んでいる。傾聴を心掛け、グループホームの仲間と仲良く楽しく関わられるようサポートしている。発語のない方も職員の声掛けで笑顔が見られている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	管理者、ケアマネからの報告、ご本人様とお話した中での情報など把握してケアに役立てています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のちょっとした変化はとても気にかけています。歩き方、話し方、レク中、食事など全て注意しながら見守っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	管理者ケアマネや他の職員と意見を重ね、一番ご本人様に良い方法を見つけ、介護計画に反映させている。	毎日のモニタリングの記録から入居者の状態を管理者、ケアマネージャー、職員で話し合い、入居者ごとの目標を見つけ、その人らしい落ち着いた安心できる生活ができる介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	モニタリングを行い、送りシート等で情報共有しながら実践や介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに合わせ、ご本人とご家族様の意見、要望等聞き入れながら受診対応や買い物の代行を行っている。		

29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	桜の季節にはすぐ近くにある桜の木の下まで全員でお花見会を行います。夏は祭りに行くなど地域の方と触れ合いやお声かけなどを通じて関わり合うと共に地域資源にも触れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関を強制せずご希望の医療機関を受けて頂くようにしている。訪問診療の診断の結果などご家族様に報告し話し合い、ご本人・ご家族様の希望に沿った対応をしている。	協力医療機関による月2回の訪問診療と一日4回の観察、バイタルチェックを行い、体調の変化がある時は、訪問看護師の助言を受けている。緊急時には医師との連携で24時間オンコールの適切な指示を受けられる。歯科医の往診と口腔ケアの指導があり医療体制は充実している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	観察や1日4回のバイタルチェックを行い、気づきや異変等は代表に報告し、連携先の訪問看護ステーションに指示を仰いでいる。診察の際には医師に伝えて相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院した際、スムーズにその時の状態に対応できるようしっかりと情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に係る方針に沿って、可能な方にはリビングウィルを作成して頂いている。状態に合わせて話し合いをしっかりと行い、情報共有し、ご本人・ご家族様の意向に沿えるよう支援している。	入居時ホームの指針を説明し同意を得ている。主治医、本人・家族と方向性を同じに支援に努めている。リビングウィルの作成を依頼し終末期の意向を共有している。職員は最後の日まで尊厳をもって暮らせるよう、その人らしく生きるための支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々のケアの中での指導や内部研修で、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練等で身に付けている。	年2回消防避難訓練を本館と合同で実施しその都度反省し改善に努めている。新型コロナ対策についても、感染予防策をマニュアル化し、ホーム全体で清潔、消毒に努め感染予防に徹し陽性者を出していない。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合った話し方接し方を心掛けて対応している。	ユマニチュードケアの実践を行い、入居者と職員がお互いを尊重し、「見る」「話す」「触れる」「立つ」の基本に沿った接遇を心掛けている。笑顔を絶やさず否定的な言葉を使用しない、その人らしい暮らしができるよう寄り添っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員に安心して話をして下さるよう、同じ目線でゆったりお話しています。尊重し否定しません。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	時間やルーティーンにこだわらず一人ひとりの調子とペースを見計らいながら順番を変えたり違う事をしたりと考えながら支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援しながらできるように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	声かけしなから召し上がって頂き、食器拭き等をお手伝いして頂いています。	職員手作りの旬の食材を使った、家庭的な食事が提供されている。目でも楽しめるよう工夫した「楽しい食事」を心掛けている。入居者は自分のできる家事を感染対策と一緒に、張り合いを感じている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事摂取量の記録をし、常にチェックし補給しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後必ず誘導しています。難しい方には支援、お手伝いをして口腔ケアを行っています。		

43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表へ記録し、時間を見ながら声かけ誘導しています。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、入居者の意思と自立を考慮し、自尊心・羞恥心に配慮した支援を心掛けている。下肢筋力を鍛えるため廊下の手すりを使った運動やウォーキングに取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動して頂いたり、歩いて頂いたり、マッサージ等もしています。水分や食物繊維のものも取り入れます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には決まった日の午前中のみとなっていますが、その中で無理強いはしません。「気持ち良いよ」と声かけしながら入って頂けるようにしています。	入浴は週3回決まった日の午前中となっている。職員との会話を楽しみ、健康チェックの時間でもある。普段と違う様子は無いか見落とさず、打ち身や皮膚の異常等、体調の変化の早期発見に繋げている。菖蒲湯等楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転してしまっている時は、なるべく昼間起きて頂けるよう声掛けしながらリズムを戻していければ、と努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お一人ひとりが飲みやすい形にし、服薬チェックを行っている。症状の変化も常に気にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好みに応じた接し方、楽しみを把握し、笑って過ごして頂けるよう努力しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日はお散歩にお誘いし外に出るように声かけ、「ただいまー」と楽しんでかえってこれるように支援しています。	天気の良い日はホームの周りの散歩に出かけている。感染予防しながら、それぞれ体力に合わせてコースを決め、森林浴や道沿いの花を鑑賞したり、近所の人との挨拶を楽しんでいる。	

50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は基本的には事務所管理となっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	適宜そのように対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全に配慮し室温を管理して快適に過ごせるように工夫しています。壁なども楽しんで見て頂けるような、入居者様自ら工作した壁画などを飾っています。	太陽の光が良く入る、開放的で明るいリビングは室温や明るさに配慮している。入居者は起床するとベットメイキングをし、身支度・整容を済ませ、リビングで寛いでいる。午前中は体操等体を動かし午後は工作や書き物等の活動を楽しんでいる。スタッフと一緒に工作した季節感のある作品を掲示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご様子を見ながらそのように過ごせるように対応している。トラブルにならないよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃や片づけを行いつつも、所有物の場所移動はしないようにしている。安心安全に過ごせるよう工夫している。	朝一番に自室の窓を開け、清々しい空気と清掃された部屋は、使い慣れた馴染みのものに囲まれている。装飾された表札も自分の部屋とわかり、安心して居心地よく過ごせている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有スペースの壁に張り巡らされた手すりにより移動できたり、装飾された表札を見てご自分のお部屋がわかるようになっている。		